

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	困難を抱える親子の支援事業
資金分配団体名:	信頼資本財団
実行団体名:	一般社団法人くじら雲
実施時期:	2021年5月～2022年2月
事業対象地域:	京都府
事業対象者:	不登校や障害などの課題を抱える子どもと、その保護者

Version 3.2

日付: 2022/3/10

I. 事業概要

事業実施概要	<p>不登校の子どもや障害のある子どもを育てる家庭、ひとり親家庭など、困難な状況を抱えながら子育てをする家庭における、日常的な支援と関わりづくりをするため、話し相手や家事サポートなどの訪問支援、不登校の子どもの居場所づくり、課題を抱えながら子育てをする保護者同士の語り合い会、学生・若者の居場所づくりに取り組みました。</p> <p>訪問して支援を行う「くらす」では、福祉サービスでは対応できない困りごとや孤立感に寄り添えるように、ご家庭を訪問して、話し相手や家事のお手伝いを実施し、継続して訪問を行っていきける体制整備にも取り組みました。</p> <p>「イトロドリ」では、学校に行きにくい子ども、時々に行けるけれどずっと通うのはしんどいという子どもが、来てその時間にやりたいことを、職員が関わりながらできる居場所づくりを行い、関連して、保護者の語らいの場「ことなば」や乳幼児と親子の居場所「そらな」を実施しました。</p> <p>コロナ禍で人と接点が激減している大学生や若者、特に一人暮らしの若者の夜カフェを「憩居空間」として実施しました。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>話し相手や日常のお手伝いなど制度に乗っ取った福祉ではできない支援や、放課後等デイサービスなどの福祉施策の対象にならない不登校の子どもへの支援を行う、ボランティア活動が、コロナ下でなかなかできなくなっているという課題を設定し、継続的にいける事業として組み立てていくという目標をたてました。</p> <p>実際の取り組みを行う中で、そうした支援を必要とされるニーズはあるけれど、一定の費用を払って頼めるという状況の方ばかりでもないという課題にも行き当たりました。有償で支援できることと無償でできることをどう組み合わせ、無償の支援の活動資金をどう捻出していくかを考えていくことが重要であると認識しています。</p> <p>生活など日常の支援については、ニーズも突発的に対応すべきことが多く、そうした突発的なニーズにいかに対応できるかも重要であることが取り組みの中でわかり、実施体制の見直しをはかりました。</p> <p>事業の中で実施した、障害のある子を育てる保護者の語らいの会では、なかなか情報がない中で不安を募らせている保護者に、こうした場が必要とされるということがわかりました。この活動はあちこちで広く展開できるものにしていきたいです。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
高齢者	その他	訪問による生活支援が行えている（高齢・障害）	訪問件数	下とあわせてのべ180回	16	福祉では手が届かないが必要とされる支援がある。しかし、その支援に対し費用を払ってお願いするということには、一定のハードルがある。（下に続く）
ひとり親	その他	訪問による生活支援が行えている（子育て他）	訪問件数	上とあわせてのべ180回	27	急な付き添いなど、緊急的・突発的な支援や人的な信頼関係からくる依頼に対応できるようにしていくことが重要である。
その他	相談先の不足	困難な状況で子育てしている保護者のコミュニティができていく	語り合いの場の実施回数	計45回	7	回数は当初計画より少ないが、障害のある子を育てる保護者が単にあつまただけでなく、どんな情報や何を話すべき場が必要とされているかをリサーチし実施した。
子ども・学生	不登校	不登校児に居場所に必要とする子どもがきている	不登校の場の実施回数	計72回	29	学校に行けていない子どもにしっかり寄り添うことができたが、一人ひとりに丁寧に考えると数を増やしていく。また子どももその日の状態で来たり来れなかったりがある。
子ども・学生	居場所の不足	大学生・若者が気軽に集まれる場ができていく	実施回数	計45回（保護者のコミュニティとあわせて）	16	実施していくなかで課題が見えてきたこともあり実施した。大学の中でのつながりか希薄化して、何かできるきっかけが求められている。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<ul style="list-style-type: none"> 活動エリアのなかで、生活支援サービスや子どもたちの居場所について「ここでこういうことをやっている」と、必要とされる人たちに認識されている状態 事業に関わるメンバーが固まり、利用料収入の範囲で事業が持続的に続けていくことができるようになっていく状態
考察等	<p>訪問型支援のくらすについて、少し設計が小さいところからスタートしたことで、無理なくできた反面、広がりが欠けるところもあったように感じている。終盤に軌道修正し、より多くのメンバーが支援にいける組織体を構築した。チラシを使った広報については、誰に何を伝えるのか、そのために必要な情報は何と何に絞るべきか、そうした視点での広報戦略が必要である。くじら雲単体ではできないことも、他の事業と組み合わせることでできることもあるので、そうした実施方法をつくりながら、継続的に事業を続けていくことに引き続き取り組んでいく。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
訪問支援を行う支援員の募集と育成	ほぼ計画通り	緊急な対応も求めるニーズに対応できるよう再構成し、期間後も継続
コーディネート体制の確立	ほぼ計画通り	他の事業との共同事業化して継続
訪問による生活支援サービスの実施	ほぼ計画通り	ニーズの掘り起こしには課題があったが、助成終了間際に継続して依頼が入り始めた
保護者同士の語り合い会の実施	計画通り	不安をやわらげ、正しい情報を集めることができる場は重要であった
不登校の子どもたちの居場所づくり	計画通り	財政的に事業継続ができるよう組み立てを検討している
学生・若者の居場所づくり	計画通り	学生団体との協働で今後も継続予定

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>当初、保護者向けの語らいの場として夜カフェを事業計画に盛り込んでいたが、子育て世代が夜に出ることが意外に困難であったこと、緊急事態宣言に伴う夜の活動のやりにくさなどもあり、着手が難しかった。</p> <p>活動していく中で、学生・若者についてもコロナ禍でなかなか人と関わる機会が持てないという課題意識を持っている学生たちと一緒に活動できるようになり、当初夜カフェを想定していた時間に、学生たちの居場所づくりを行うこととなった。</p> <p>商店街のお店の方と学生の交流や、地域のお寺やコミュニティからイベントの参加を誘われるなど、想定しなかったつながりも生まれている。</p>
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>課題を取り巻く状況は大きく変化していない。今回の助成事業を通して、福祉事業だけでは解決できない課題を、独自に実施できる自主事業として継続していきける形を構築することを目指した。、まだまだ理想には遠いが、できる状態に近づいている。</p> <p>るくらすについては、コミュニティカフェの事業と共同で実施していくことで、継続できる形を構築した。</p> <p>イロトリドリについては、利用者負担と寄付金・助成金を組み合わせて継続をしていくことになった。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
3ups	学生・若者の居場所づくり

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	9,275,000	9,219,988	99.4%
	管理的経費	725,000	674,550	93.0%
合計		10,000,000	9,894,538	98.9%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	<p>るくらすチラシ（第1弾） 12000部 （第2弾） 10000部 （第3弾） 12000部</p> <p>イロトリドリチラシ（第1弾） 300部 （第2弾） 500部 （第3弾） 12000部</p> <p>憩居空間チラシ 200部 放課後カフェチラシ（イロトリドリ関連） 1000部</p>
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
<p>※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)</p> <p>1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。</p>	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	

4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置して いましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しまし たか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査	税理士による帳簿の確認と決算書類の作成を依頼
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、 または受領していますか。		
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を設置

XII. その他

自由記述